

製品安全データシート

製造者情報

会社名 株式会社MonotaRO
所在地 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階
担当者名 商品お問合せ窓口
電話番号 0120-443-509
FAX番号 0120-289-888
緊急連絡先 所在地と同じ
作成日 2015年2月4日

製品名 MonotaRO ブレーキ&パーツクリーナー「2000」

危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

火薬類

可燃性／引火性ガス

可燃性／引火性エアゾール

支燃性／酸化性ガス

引火性液体

自己反応性化学品

自然発火性液体

自己発熱性化学品

水反応可燃性化学品

酸化性液体

有機過酸化物

金属腐食性物質

分類対象外

分類対象外

区分 1

分類対象外

区分 2

分類対象外

区分外

分類できない

分類対象外

分類対象外

分類対象外

区分外

健康に対する有害性

急性毒性（経口）

急性毒性（経皮）

急性毒性（吸入：気体）

急性毒性（吸入：蒸気）

急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）

皮膚腐食性、刺激性

眼に対する重篤な損傷、刺激

呼吸器感作性

皮膚感作性

生殖細胞変異原性

発がん性

生殖毒性

特定標的臓器、全身毒性（単回暴露）

特定標的臓器、全身毒性（反復暴露）

区分外

分類できない

分類できない

分類できない

分類できない

区分外

区分 2A

分類できない

分類できない

区分 1B

区分外

区分 1A

区分 3（気道刺激性、麻醉性）

区分 1（肝臓、中枢神経系、末梢神経系）

区分 2（神経）

吸引性呼吸器有害性

区分 1

水生環境有害性（急性）

区分 2

水生環境有害性（慢性）

区分外

GHS ラベル要素



危険有害性情報

極めて可燃性・引火性の高いエアゾール
 引火性の高い液体及び蒸気
 強い眼刺激
 遺伝子性疾患のおそれ
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ
 呼吸器への刺激のおそれ
 眠気またはめまいのおそれ
 長期または反復暴露による肝臓の障害
 長期または反復暴露による神経の障害のおそれ

使用上の注意

缶の記載事項をよく読む。
 製品の使用中、飲食および喫煙しない。
 使用後は手洗い、うがいを十分、行う。
 熱、火花、火炎、高温のものから遠ざける。
 必要に応じて保護具を着用する。
 屋外または換気の良い場所で使用する。
 使用後は手洗い、うがいを十分する。
 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
 医師の手当を受ける。
 飲み込んだ場合 : 水で口をよくすすぐ。無理に吐かせない。医師の手当を受ける。
 眼に入った場合 : 水でよく洗う。コンタクトレンズを装着してる場合、固着してなければ外す。十分、洗浄後、医師の手当を受ける。
 皮膚にかかった場合 : 水と石けんでよく洗う。衣類が濡れた場合、直ちに着替える。
 濡れた衣類を再着用する場合は洗濯する。
 腫れが生じたり皮膚への刺激が強い場合は医師の手当を受ける。
 製品は屋内の直射日光が当たらない涼しいところで保管する。
 内容物、容器は規則に従って廃棄すること。

組成、成分情報	成分及び含有量 化学式または構造式 C A S N o . 官報公示整理番号 国連分類、国連番号 消防法 労働安全衛生法 P R T R 法	石油系溶剤、エタノール、噴射剤 (LPG, CO ₂) 混合物のため特定できない。 企業秘密のため非公表。 企業秘密のため非公表。 クラス 2、番号 1950 第 4 類第 1 石油類 危険等級 II 通知対象物：エタノール(10%未満)、ブタン(噴射剤) 危険物（可燃性ガス） 非該当
応急措置	吸入した場合 飲み込んだ場合 眼に入った場合 皮膚にかかった場合	: 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。必要なら医師の手当を受ける。 : 口をすすぐ。無理に吐かせない。医師の手当を受ける。 : 水でよく洗う。コンタクトレンズを装着してる場合、固着してなければ外す。十分、洗浄した後、医師の手当を受ける。 : 水と石けんで十分、洗う。衣類が濡れた場合、直ちに着替える。濡れた衣類を再着用する場合は洗濯する。 腫れが生じたり皮膚への刺激が強い場合、医師の手当を受ける。
火災時の措置	消火方法： 保護具（呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等）を着用する。 風上から消火する。初期の消火には下記の消火剤を用いる。 消火剤 消火に棒状の水を使用しない。	速やかに容器を安全な場所に移す。 保護具（呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等）を着用する。 風上から消火する。初期の消火には下記の消火剤を用いる。 消火剤 : 霧状の強化剤、泡粉末または炭酸ガス消火器。 消火に棒状の水を使用しない。

漏出時の措置	保護具（呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等）を着用する。 風上から作業する。 砂、おがくず、ウエス、新聞紙等に吸い込ませて、回収する。 土壌、河川、湖沼、海、下水道等に流入しないように注意する。		
取扱いおよび保管上の注意	関係法令の定めるところによるほか、以下の点に注意する。 取り扱い 缶の記載事項をよく読む。 製品の使用中、飲食および喫煙しない。 使用後は手洗い、うがいを十分、行う。 熱、火花、火炎、高温のものから遠ざける。 必要に応じて保護具を着用する。 屋外または換気の良い場所で使用する。 使用後は手洗い、うがいを十分する。 直射日光が当たらない屋内の涼しい場所で保管する。 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化生物質との接触、同一場所での保管を避ける。		
暴露防止措置	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH(TLV-TWA)
	石油系溶剤	設定されていない	記載なし 500ppm
	エタノール	設定されていない	設定されていない 1,000ppm
	設備対策	外気を取り入れて通気性をよくする、又は排気装置を設ける。 手洗い、うがいができる洗浄設備があれば望ましい。	
	呼吸用保護具	必要であれば防毒マスクを着用する。	
	保護眼鏡	必要であれば普通型眼鏡を着用する。	
	保護手袋	長時間、または繰り返し接触する場合、耐油性のものを着用する。	
	保護衣	長時間にわたって取り扱う場合、または濡れる場合、耐油性の 長袖作業服等を着用する。	
物理／化学的性質	外観等	無色透明液体	
	臭気	溶剤臭。	
	揮発性	強い	
	沸点範囲	61～68℃（石油系溶剤について）	
	蒸気圧	44.1kPa (37.8℃)（石油系溶剤について）	
	密度	0.66g/cm ³ (20℃)（石油系溶剤について）	
	蒸気密度	2.99(空気=1)（石油系溶剤について）	
	溶解度	水に難溶、アルコール、エーテルに易溶	
危険性情報	引火点	-30℃以下（石油系溶剤について）	
	発火点	280℃（石油系溶剤について）	
	爆発限界	1.2～7.7vol%（石油系溶剤について）	
	可燃性	液体は揮発性が強く、引火しやすい。 蒸気は低所に滞留し、地表面に添って移動し、着火源があると引火 爆発を起こす恐れがある。	
	自然発火性	なし	
	酸化性	なし	
	自己反応性	なし	
	粉塵爆発性	なし	
	安定性	安定	
	反応性	強酸化剤との接触をさける。	

有害性情報	刺激性	皮膚：刺激作用がある。 長時間、または繰り返して使用すると皮膚が脱脂されて皮膚炎を起こすことがある。 (エタノール)OECD TG404 ラット not irritating
		眼：刺激性があり、結膜炎を生じることがある。 (エタノール)OECD TG404 ラット moderate トレイズ法 ラット moderate ヒトで角膜上皮の障害、結膜充血は1,2日間で回復する。 眼を強く刺激する(区分2A)
急性毒性	石油系溶剤を構成する1成分	ラット 経口 LD ₅₀ ：5,000mg/kg
		石油系溶剤を構成する上記とは別の1成分 ラット 経口 LD ₅₀ ：25,000 mg/kg エタノール：ラット 経口 LD ₅₀ 5,000mg/kg ラット 吸入(蒸気) LC ₅₀ ：2,000ppm/10hr (31,600ppm/4hr) 吸入(ミスト) LC ₅₀ ：63,000ppm/4hr 飲み込むと肺に吸収され、化学性肺炎の危険を伴うことがある。 中枢神経系、肝臓、肺に影響を与えることがある。 高濃度の場合、意識低下を起こすことがある。
慢性毒性	慢性毒性	反復または長期に皮膚との接触は皮膚炎を起こすことがある。 末梢神経系に影響を与え、多発性神経障害を生じることがある。 人で遺伝子損傷を引き起こすことがある。
		発がん性 データなし 感作性 データなし 変異原性 データなし 催奇形性 データなし 生殖毒性 データなし
環境影響情報	魚毒性	データなし
		蓄積性 データなし 分解性 データなし
廃棄上の注意	廃棄物処理法に従って自ら処理するか、産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合、そこに委託して処理する。	
輸送上の注意	輸送時には「取扱いおよび保管上の注意」の項に記載した内容に留意するほか容器に漏洩、破損のないことを確かめ、荷崩れを起こさないよう確実に積み込む。 さらに関連法令に従った措置も講じる。	
適用法令	消防法・・・第4類第1石油類、危険等級Ⅱ	
	労働安全衛生法・・・通知対象物：エタノール、ブタン(噴射剤) 危険物(可燃性ガス) 高圧ガス取締法・・・第12条 水質汚濁防止法・・・油分排出規制(ノルマルヘキサン抽出分として) 海洋汚染防止法・・・油分排出規制(原則禁止) 廃棄物の処理および清掃に関する法律・・・産業廃棄物規制(拡散、流出の禁止)	
参考文献	1. ITRC MONOGRAPHS ON THE EVALUATION OF THE CARCINOGENIC RISK OF CHEMICALS TO HUMANS VOLUME 33	
	2. 許容濃度の勧告(1992) 日本産業衛生学会 産業医学 35巻 p.323-367 3. 製品安全データシートの作成指針(日本化学工業協会) 4. GHS 対応による混合物(化学物質)の作成手法の研修テキスト(改訂版) (中央労働災害防止協会) 5. 各原料のMSDS	
注意事項	この製品安全データシート(MSDS)は通常の手配を想定して作成したものです。 MSDSは安全の保証を約束するものではありません。 取扱者は状況に応じて使用してください。 MSDSの内容は新たな知見により予告なく変更することがあります。	